

山口調理製菓専門学校長 須内章雅
Sunouchi Akimasa

○ 谷間から

少し取り上げるのが遅くなってしまいましたが、このたびの連休のことです。暦のいたずらか、今年の5月2日と6日はゴールデンウィークの間に一日ずつ存在する平日でした。これを「連休の谷間」という表現をしてよいのかと少し迷いました。企業（事業所）や学校によっては連続した休日にしたところもあることでしょう。しかし多くの学校はほとんどが暦通りに授業を行ったようです。私は現在、主に列車通勤をしていますが、同じ時間一緒に乗車する中・高校生たちはいつもとほぼ同じように登校していました。10連休にはならなかったけれど、見方を変えて“2～3連休が繰り返し味わえる。”と前向きに考えたら案外楽しいことに思えました。私自身は実家の草刈り作業がはかどりました。

谷間と表現することを迷ったのは、この登校日が児童・生徒・学生にとって学校に行きたくない日になって欲しくないからです。学校に行きたいと思える理由として考えられるものにはどんなものが挙げられるでしょうか？学習の充実、調理技術の向上、友人とのふれあいなどが思いつきました。教職員とのふれあいというものもあるかもしれません。しかし、学校側としては学習の充実と技術向上のための工夫・改善が欠かせませんね。学習の充実のためには学ぶ側が満足してくれなければなりません。では、どんな時に満足感を感じるのでしょうか。新しいものを発見した時の面白さ・喜び、知識・技術が身に付いた（向上した）という充実感、クラスメートと学びで協力・競争する楽しさなどではないかと思えます。ほかにたくさんあると思いますが、そのような学びがこれからも形成されることを願っています。

○ 「ことば」から

また引用してみます。私も若い頃は自分の生活が一つの道のように感じていました。明確には見えていないけれど自分の将来の目標を探りながら迷いながら進んでいたような印象があります。教員として仕事をするようになってからは、この記事にあるように自分の生活が「回っている」という感覚が芽生えました。

思春期に突入しようとする中学校1年生を迎え、1年間の学習を見守ります。そして3年過ぎれば卒業していきます。そのようなことが毎年繰り返されます。（小学校であれば6年間です。）子ども側からすれば、卒業して次の生活が始まる訳ですから、直線の方の感覚でしょう。教師側から

すれば、まさに回っているという感覚ですね。もちろん子どもは毎年違いますから同じ回り方ではありません。また、回り方が違うのは子どもが違うからだけではありません。教師は何年間か同じ教科書を使って授業をしますが、方法は1年ごとに微妙に変わっていきます（工夫・改善していきます）。そのようなことに関連する内容がかつてこのたよりで記述したことを思い出しましたので、次のページにコピーして掲載してみます。

○ 自画自賛

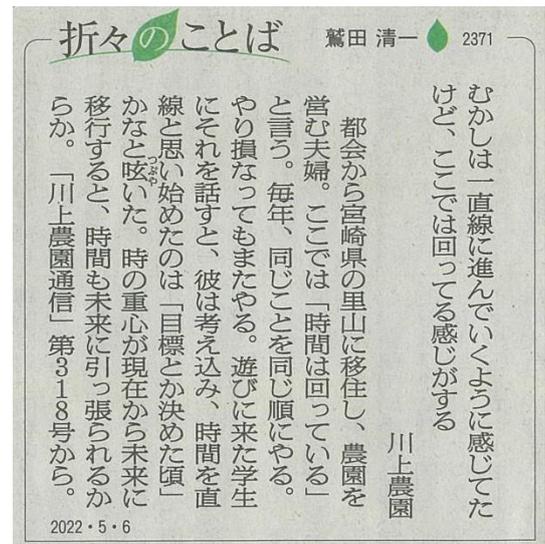
私の個人的な考えで玄関前に“植物”を飾っています。定期的に散歩してくる近くの保育園の子どもたちが不思議そうに眺めています。できるだけ食材に関係するものを選んでみようと思いますが、そのうち素材不足になることもあるでしょう。



サンショウ

サクラランボ

ユズ





○ 改革

こう表現するとかなり大きな（重たい）言葉のように感じられます。しかし小さな改革は誰もが毎日しているように思います。今回この内容を取り上げたのはある冊子の文章を読んだからです。その中に「変わらないでいるためには、変わり続ける必要があるのです。」という表現がありました。その文章全体の詳しい紹介は省略しますが、納得し共感をしました。

何年前からPDCAという表現が使われ始めました。今では多くの皆さんがすでにご存じだと思います。Plan（計画）、Do（実行）、Check（評価）、Action（改善）ですね。これも改革と言えるでしょう。

実は私はこの表現が使われ始めたころ、個人的には嫌いな言葉でした。単純に“押し付けられる”ような感覚をもったからです。今でもできるだけ使わないようにしています。しかし、毎日誰でも必ず行っていることだとある時から気づきました。大きさの違いはありますが、よりよいもの（こと）を望むのは人間として普通のことですね。動物でも植物でも一緒かな？

私は美術・造形の授業を担当していますが、同じ題材を何度も扱うようになります。しかし、対象者はその都度新しい人々です。毎回説明の仕方や資料の作成などは少しずつ工夫・改善をしています。「どうしたら分かりやすく単純化できるか。」などということを考えます。究極の“正解”にはいまだたどり着けていません。相手も子ども～大人と、年齢が違えば伝え方も資料の表現も当然変わらざるを得ません。そもそも究極の正解などないのでしょね。伝えた相手が理解したような、嬉しそうな表情をしてくれたとき、ちょっとした工夫をし続けるやりがいを感じます。

また、思い出話になります。30代のころ、専門外である「国語」の授業を担当したことがあります。（無免許ではありません。県教委に申請して臨時免許を取得した上です。）国語は高校入試にあるいわゆる5教科のうちの一つです。初めて担当した年度は大変なプレッシャーを感じました。私が黒板に書く漢字すべての書き順も間違えるわけにはいきません（その当時の入試には必ず書き順の問いが出題されていました）。振り返れば、ある意味自分の一生の中で最も勉強した時期だったと思います。

どうにか大きな失敗をせず一年間が過ぎました。幸いなことに二年目も同じ学年の同じ国語科を担当できました。内容は同じです。しかし、二年目は改善点がたくさん見つかっています。また“勉強”です。三年目も担当しました。一年目であれほど苦勞した授業も三年目は楽しくなりました。いろいろな工夫ができるようになったからです。やりがいも感じさせていただきました。その時のことは YIC 保育 & ビジネス専門学校の KOCHO だより 83 号で記述していますので、次のページで紹介いたします。四年目を担当し終えた時点で転勤の話があり、国語科の担当は終了しました。今この KOCHO だよりを書くにあたって当時の勉強が生きていると感じることがあります。

これは省略

また、話題を変えます。PDCA・改革・改善などのことを考えていると、「数値目標」という言葉も出てきますね。この言葉も個人的にはあまり好きではありません。しかし誘われてゴルフを始めたとき、はまってしまいました。まさにゴルフは数値目標のスポーツですね。大人になってから小学生時の遠足を待ちわびるような感覚を味わえるとは思いませんでした。その日のスコアが目標よりも1打少なかつただけでウキウキ気分です。ただ、自分のフォームはなかなか改善・改革できないところが悩みの種ですね。

～ 以下省略 ～

